

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

令和3年新春
第25号



羽ばたき 民主主義の挑戦!! 輝き合う社会を求めて

土居昌弘公式ホームページ
http://doi-masahiro.net/

編集：大分県議会自由民主党 発行：大分県議会自由民主党 土居昌弘連絡事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地 TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124

いのち輝く社会を求めて

巣ごもり正月

新型コロナウイルスの第3波により、外出自粛のムードが日本社会を覆います。12月から忘年会やクリスマス会など、人々が集って顔を交わせ、親睦交流する行事がほとんどなくなってしまうかもしれません。それどころか、事業所によっては、夜の店での飲食は控えるようにと自粛令が出され、就業時間外も職員は会社からのお断りを受け入れなければならなくなりました。

もちろん、正月も同様。年の暮れに寺に除夜の鐘を叩きに行き、新年を迎えれば神社に初詣に行くという、日本人独特の行事にも制限が入ります。私自身、初日の出を迎えた後は城原神社へ出かけ、歳旦祭にお参りするのが習わしですが、残念ながら、年末に中止にするとの連絡をいただいたところです。

コロナでわかる地域社会の問題点

中国が武漢市での原因不明の肺炎患者の存在を公表したのが、令和元年12月31日。あれから丸1年が経ちました。ところが、感染確認者は減少するどころか冬場になって増加し続け、日々死亡者が確認されています(県内累計死亡5名)。グローバル化した社会で感染が一気に拡大して、世界中が新型コロナウイルス感

日はまた昇る

リスクコミュニケーションとは、「社会を取り巻くリスクに関する正確な情報を、行政、専門家、企業、市民などのステークホルダーである関係主体間で共有し、相互に意思疎通を図ることをいう。合意形成のひとつ。(ウィキペディア)」です。

地域社会全体で、このリスクコミュニケーションをとりつつ、「人のいのち」について深く考え、それぞれのいのちを大事にした取り組みが必要ではないでしょうか。それぞれの機関が、それぞれに判断して基準を設け、私達の暮らしに規制をかけようとお願ひするのではなく、それぞれが集まって地域社会全体で問題を共有し、克服するための手段を皆で決定し、実行していくことが重要であります。

そして、このことは、単に感染症の問題だけに当てはまるものではありません。このようなマネージメントは、自治体運営にも当てはまります。そこで暮らす人々も含め、自治体を構成する関係者すべてが問題を共有し、それを解決するために、皆が一緒に進んでいくことが大切なのです。

このコロナの危機は、私達に何かを教えようとしてくれています。この大事な教えを今後活かせるかどうかは、私達にかかっています。必ず、朝は来ます。その夜明けの時に、よりよい社会のしくみができているよう、ともに力強く歩んでいきましょう。



西村経済再生担当大臣兼新型コロナ対策担当大臣と、これからの地域社会づくりについて協議。私達に足りないところが見えてきます。(9月19日)

医療福祉従事者ならびにエッセンシャルワーカーへの支援の充実を田村厚生労働大臣に要望。最前線で仕事をする方々の実状を訴えました。(11月19日)



菅官房長官(当時)と遠隔での対談。「地方に軸足を置いて国づくりを考えて」と強く要望。(9月11日)



11/19 県議会自由民主党で、国へ要望活動。県執行部の動きも頭に入れつつ、我々の要望を2日間かけて国に伝えます。今回の要望先は、自民党本部、農林水産省、厚生労働省、国土交通省、文部科学省、経済産業省、総務省、財務省。政務調査会長の腕の見せ所です。



11/17 全農おおいの代表理事をはじめ、役員の方々と、大分青果センターについて協議。画期的な取り組みです。協議後は現地に行き、運営状況も確認。従来のやり方を変える勇気もお見事です。

10/27 7月豪雨の爪痕が深い天ヶ瀬温泉。これから河川の改修工事をしていく訳ですが、どう改修するのかはまだ決まっていない。これには、地域住民の総意が必要。合意形成の方法を考えます。



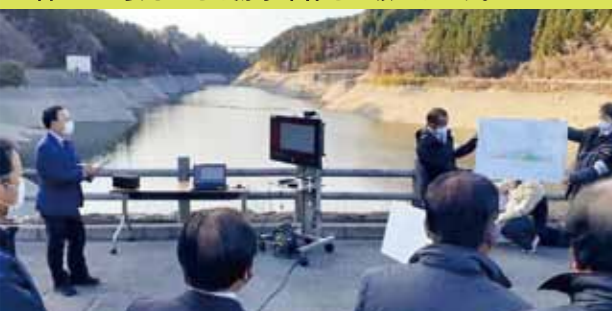
12/8 市民からの要望で、河川の改修をしていたところ、護岸に不具合が発生。急いで現場を確認して、竹田土木事務所所長と協議。そして、土木事務所がきちんと対応。地元土木事務所があることに感謝します。

12/6 夜があるからこそ、美しい星が見えます。大分県医療的ケア児者の親子サークルでは、クリスマス会としてプラネタリウムを実施。看護科学大学や別大看護専門学校の先生や学生もお手伝い。みんな輝いています。



12/10 国の安全性評価委員会が、大蘇ダム健全性や浸透抑制工の効果などを調査に来ました。「水漏れダム」の不安を払拭できない大蘇ダム。農家の皆さんが安心できる貯水確保をお願いします。

12/9 昨年度、私が政策検討協議会会長として制定した『豊かな人生を送るために「人生会議」の普及啓発を推進する条例』が、脚光を浴びています。死をタブー視する社会をなんとかしたいです。



12/22 令和3年度当初予算案編成にあたって、自由民主党から知事に最重点要望を提出するのは1月15日。これまでの重点要望を基に、政務調査会で社会が必要としている事業はなにかを見極め、知事に要望します。熱のこもった議論を重ねていきます。



10/18 大分県看護研修会館で、大分県看護連盟リーダーシップセミナーの講師。大分県の精神科医療の現状と、緩和ケアにおける人生会議の意義について講演。質疑応答では、大久保病院の看護師が話を盛り上げてくれました。



10/28 知事へ来年度の予算要望。各種団体からの約400項目の要望と、県議会自由民主党がつかんだ改善事項とを整理して、89項目を重点要望として知事に提出。知事も真摯に耳を傾けます。これからの予算案編成に活かして欲しいものです。



10/11 竹田市の農業は、今後どうあるべきか。農業が基幹産業である竹田市は、この力をさらに伸ばしていかなければならない。実地も踏みながら現場からの発想で、竹田市農業の行く先を確かなものにします。



11/24 ピッチが上がる玉来ダム建設工事。今は、ダム堤体左右岸の造成アバットメントづくり。水で養生しつつコンクリートを打ち、つくるのは日本最大規模の人工岩盤。今度の梅雨までに治水効果を発現します。



10/20 海洋科学高校で、単独校の魅力づくり。白杵高校では、志願者確保策。文理大附属高校のICT教育。津久見第一中学校では、オンライン授業。訪問してのそれぞれの調査で、ポイントが見えてきます。



10/26 苦しい商店街がコロナ禍もあって、さらに厳しい。しかし、皆さんは懸命に頑張っています。中津市の日ノ出町商店街も、みんなで知恵を絞り、みんなで汗をかいて、先進しています。広がっていきましょう。



きめの細かい 来年度当初予算案を

令和3年度当初予算案の編成作業も大詰めです。ここでは8月下旬から12月までの私の議場外での議員活動を一部紹介して、我々、大分県議会自由民主党がどのようにして考えをまとめ、地域の要望を大分県予算に反映させていこうとしているのかをお伝えします。地域の暮らしの現場が、政策の起点。これからも県民の声が大分県に届くように励みます。

9/12 明治地区に、新しい地域運営組織が誕生。過疎化と少子高齢化により、自治会長や地区社協などが機能不全に。明治で暮らし続けるために「コミュニティひろばi-meiji」を結成。戦力で応援します。



8/17 豊肥牛牛市場が開催されました。コロナの影響で、外食を中心とする高級和牛が消費されません。当然、牛の値段も下がる。市場には、夏休みなので子供の姿も。ここが踏ん張りどころです。



9/24 10月に開所する県病 精神医療センターへ。大分県にやっとできた精神科救急。塩月センター長と、秘書を務める佐藤看護師とで、これからの運営を協議。当事者や家族の願いを伝えます。



8/20 駅前には古町にある「みんなのいえカラフル」で、たけた認知症カフェ。こちらもコロナの影響で、内輪だけに。感染防止対策によって、集いの場が休止に追い込まれています。深く考えます。



10/2 県議会自由民主党では、この時期に3日間かけて、80を超える各種団体と意見交換会をします。それぞれ団体が県や国への要望を述べ、現状の厳しさを訴えます。しっかりと受け止めます。



8/24 自由民主党農林水産振興調査会で、大蘇ダムの水を利用した営農を調査。菅生や萩などをまわり、大蘇ダムも見学。計画的な営農で、さらなる地域の発展が見込めます。力を傾注します。



10/3 収穫も終わりに近づき、現場も落ち着いたもので、農家さんのところで葡萄栽培の勉強。これまでピオーネづくりに励んできましたが、今年は糖度20度を超えるシャインマスカットづくりに挑戦しています。



9/8 7月豪雨で被災した法華院温泉山荘。夏から秋は、特に登山客で賑わいます。ところが営業できません。バンガロー12棟とテント場が土石流で崩壊。「やれることをやるのみ」と代表者。支援します。





ホーバー議案の説明を受ける自由民主党会派



本会議では、議員提出議案の説明



タブレット、パソコンを使って行う商工労働企業委員会

だからこそ前を向く大分県 県議会議令和2年度第4回定例会を終えて



新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。大分県では夏から秋にかけて、コロナの感染者が出まきませんでした。そのこともあってか、GOTOトラベルをはじめとする緊急経済対策が、大分県において見事な効果を出すことに。

ところが、11月末からは、第3波が襲来。12月17日に東京都は、医療提供体制の警戒レベルを4段階のうち最も深刻な「体制が逼迫している」というレベル4に引き上げました。この状況に至る過程のなかで開会された、大分県議会第4回定例会。医療福祉から経済まで、状況が悪化して

いくなかで、本年度一般会計補正予算案（補正額2億8334万1千円・累計7757億763万4千円）と、安全上の措置や保険加入について定める大分県自転車安全適正利用促進条例制定案など28議案を慎重審査。当然のことながら、コロナ対策の議論に多くの時間を費やしました。補正予算案の至る所に、大分県を感染防止対策と社会経済活動対策の両輪で運営していくというとする、知事の姿勢がうかがえます。

そのようななか、議会の注目を集めたのが、国東市にある大分空港と大分市を結ぶ

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。大分県前、空港と大分市を結んで運航していましたが、空港道路の閉鎖によって利用客が減少したり、ホーバークラフトの部品の調達ができなくなったので、広瀬知事が廃止を決定した。それを復活させたいというのです。しかもコロナ禍で、空港利用客をしばらくは望めない現状で。

大分空港のアクセスの悪さを解消し、ホーバークラフトという魅力も加え、空港利用客を増やす。以前のホーバークラフト運航時にあった課題は解決する。などと、執行部の説明を幾度も聴き、議会も議論を重ねました。

そして、そこから議会に伝わってきたことは、苦しい時代だからこそ、その苦痛に手当てしながらでも、次の一歩を踏み出す準備をしたいという執行部の決意です。空港を拠点に、どのようにして人々を県下各地へ移動してもらおうかを考えると、現状のアクセスでは余にも弱すぎます。ここを改善していくという執行部の判断を尊重しました。可決して議会を通した事業は、議会にも責任があります。議会も引き続き、しっかりとチェックしていきます。

そのようなか、議会の注目を集めたのが、国東市にある大分空港と大分市を結ぶ

決算審査の結果を令和3年度に活かして 決算特別委員会の報告



10月6日から11月5日までの間に開催された決算特別委員会。私が委員長に選任され、委員会に令和元年度大分県一般会計歳入歳出決算と各特別会計歳入歳出決算、ならびに大分県病院事業会計決算などの企業会計決算の審査議案が付託されました。

そこで、会計管理者および監査委員ほか執行部関係者の出席を求め、予算の執行が適正かつ効果的に行われたか、また、その結果、どのような事業効果もたらされたかなどについて説明を受け、委員と執行部が問答を重ねる侃々諤々の決算特別委員会。議論も熱を帯びてきます。

特に、熱い議論となったのが、財政運営の健全化についてです。本県では「行財政改革アクションプラン」に基づいて行財政改革に取り組んだ結果、財政調整用基金残高は目標額を26億円上回る350億円余となるなど、財政の健全化に一定の効果を上げていま



本会議は、インターネット中継されます。県議会を様々な手段でお伝えしています。

委員長報告

しかしながら現在、少子高齢化の進行に伴う社会保障関係経費の増加や、新型コロナウイルス感染症への対策などにより財政環境が厳しくなっていると考えられます。県が掲げる長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」の確実な実施に向けては、さらなる効率的・効果的な行財政運営を求めたところです。

また、災害などの不測の事態に対応できるように、引き続き歳入の確保、歳出の削減に努めるようにと求めました。

さらには、個別事項として、保健所および県立病院の体制強化と、河川緊急情報基盤の整備を挙げ、今年度、我々を襲っている新型コロナウイルス感染症や7月豪雨の対策事業などに力を傾注することを言い添えました。

こうした審査結果を踏まえ、令和元年度の決算を決算特別委員会で認定。委員会の意見も尊重して、令和3年度当初予算案を編成していただけることを願っています。